

おだがいさま

odagaisama

第56号
平成27年
2月1日発行

コートで輝け!!
チームを信じて
勝利をつかめ!!



今年で6回目を迎えた庄内地区障害者フロアホッケー大会*が昨年の11月30日に鶴岡市小真木原体育館で開催され、市内を中心に計8チーム、約130人が出場しました。

トーナメント式で行われた競技では、各チーム(6人構成)がゴールを狙いコート内を走り回る中、見事なパス回しをみせたり、時には激しくぶつかり合ったりなど、熱いゲームが繰り広げられました。

競技会場が熱気であふれる中、鶴岡高等養護学校チームが、強豪チームを抑え見事優勝を果たし、後藤彩花選手(2年)が大会MVP(最も活躍した選手に贈られる賞)に選ばれました。

チームリーダーの高野叶夢選手(3年)は「緊張していたが“勝とう”という気持ちが強かった。チームのみんなと“協力できたので勝てた”と思う。後輩たちには来年もぜひ参加して優勝してほしい。」とゲームを振り返り、後輩たちにもエールを送ってくれました。

*スペシャルオリンピックス日本・山形・鶴岡支部と鶴岡地区障害者通所施設協議会が主催。
鶴岡南ロータリークラブが後援。鶴岡南ロータリークラブ杯として開催。

年頭のご挨拶



会長 難波 玉記

新年あけましておめでとうございます。

今年も「もつけどのう」、「おだがいさまだ」を合言葉に、地域福祉事業をはじめ、高齢者福祉事業、障がい者福祉事業、児童福祉事業を中心に鶴岡市社会福祉協議会役職員一丸となって、市民の幸せのため頑張ることを、新年にあたり改めてお誓い申し上げます。

昨年は豊浦地区の多機能施設「はちもり」、「陽光児童館」の運営を四月より開始し、市民の皆さまをはじめ地域の方々のご協力とご理解のもと順調に進んでおります。

今年は新たに生活困窮者自立支援法が施行されることとなりますが、市社協としても、こうした方々の早期の自立が促されるよう、力を注いで参りたいと存じます。

日本の経済は上向きといわれておりますが、国民一人ひとりの生活の中で実感されるにはまだほど遠く、厳しい経済が続いております。本年も市民福祉向上のための皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

が付けば続けていた!!

市内の各地で、ボランティア意識の高まりや自由な意志にもとづいた自主的、創造的な活動がみられるようになってきています。

今回は、長年にわたりボランティア活動を続け、今日のボランティア活動の活性化に貢献されてきた方々にお話を伺いました。次世代へのメッセージもいただきましたのでご紹介します。

「自分の暮らす町の福祉活動への関心が高まりました」

「つるの会」 会長 帯谷 敏子 さん（ボランティア歴31年）



「入居者の皆さんともすっかり顔なじみ。外出レクにもおともします。」

ボランティアグループ「つるの会」の一員として特別養護老人ホーム「じおん荘」のリネン交換を月1回行っています。その他に、お花見や運動会、夏まつりなどの施設行事に協力することもあります。きっかけは、友人から聞いた「つるの会」の活動に興味があったことで、市社協のボランティアスクールを経て、すぐに入会しました。当時は「ボランティア」という言葉も考え方もまだまだ浸透してなかったのですが、活動に入る前に、ボランティアスクールの受講して本当に良かったと思っています。活動を続けられたのは、人に恵まれたことだと思います。ボランティア活動を応援してくれる家族、気心の知れた仲間たち、施設の職員の皆さん。そして、笑顔やハイタッチで私たちを迎えてくださる入居者の皆さん。こんな素敵な人たちに囲まれたおかげで、今日まで楽しく続けることができました。活動を通して、自分の暮らす町の福祉活動への関心が高まりました。また、困っている人を見かけた時には、自然に声をかけたり、手を貸したりできるようにになりました。

メッセージ

今の若い人たちは、趣味や特技をたくさん持っていると思いますので、ぜひ、それを活かして、いろんな人たちと意識的に触れ合ってください。もちろん「つるの会」への入会も大歓迎です。

「自分の生活のエネルギーに繋がっています」

「マルチボランティア」 後藤 豊喜 さん（ボランティア歴12年）

毎週月曜日に荘内病院の受付補助や出入り口の乗降補助、病院案内などを行っています。その他、登録しているボランティアセンターからの依頼に協力したり、NPO災害ボランティアネットワークの活動を行ったりしています。それから、日課になっていますが、近所の障がいのある方へ訪問し、話し相手をしたり、ヘルパーさんだけでは行き届かない所のお世話をしたり、冬は除雪などもしています。

私の母が、介護が必要な状態になり、母が寝たきりにならないようにと、介護の仕方について自分なりに工夫していました。そんな中で介護や福祉に興味をわき、市社協のボランティアスクールに通ったのがきっかけです。活動を続けられる理由は、ボランティア活動を通して、いつもパワーをもらえているからだと思っています。今までお世話になった分、自分のできることをお手伝いしたいと思っています。

メッセージ

ボランティア活動をすることで、自分の生活が規則正しくなりました（リズムが崩れないなど）。「今日はこの活動、明日は何がある？」と生活にも張りがあります。何よりも継続することが大切だと思います。継続することで自分も力（パワー）をもらえています。79歳になりましたが、これからパソコンをやってみようとも思っています。こんなふうに、自分の生活のエネルギーに繋がっています。



「イザという時、空き缶でもご飯が炊けるって知ってた？」サバイバル飯(サバ飯)実演中!!

「やはり、喜ばれることがすごくうれしいですね」

「おもちゃの病院」 代表 富樫 芳男 さん（ボランティア歴16年）



ドクターの診察中
「おもちゃさん、今日の調子はいかがですか？」

「おもちゃの病院」のドクターとして毎月第3日曜日に、イオン三川店を会場に回診（修理・相談）を行っています。

「子どもたちの物を大切にすること、人を大切にすることを育てたい」といった思いから、NHK鶴岡のフリーマーケットの開催にあわせ、運営委員会のメンバー数名と「おもちゃの病院」を始めたことがきっかけです。

活動を続ける秘訣は、特にないのですが、「好きだから」です。

フリーマーケットの終了に伴い、会場を中央児童館、そしてイオン三川店へと移して現在に至っています。その時々で事情で会場が変更になりましたが、様々な方のご協力により、休診することなく続けられています。

やはり修理をして、喜ばれることがすごくうれしいですね。

ところで、こんなエピソードもありますよ。

・おばあさんが、自分の娘に買った「ままごと道具」を、孫へ渡したいと修理に来たことがある。電池が切れて修理にくるときもある。

・通りがかりの大人から、「時計バンドのはめるところ（尾錠）を直せないか」と頼まれたこともある。

・3分の1は入院になる（部品がない、原因不明など）。後日、待ち合わせをしてお渡しした事もある。

メッセージ

おもちゃは（残念ながら）修理できるとはできていないんですね。

ドクターとアシスタントを募集しています。一緒に遊んでみませんか!!

連絡先 富樫

(090-1496-8096)

「“こころの交流を楽しむ” こと、これが大事ですね」

「しゃべってほっとの会」 会長 佐藤 進 さん（ボランティア歴8年）

市社協の羽黒福祉センターで月に1回「誰かとしゃべりたいな」と思っている人は誰でも好きな時間に参加できる「しゃべってほっとの会」のサロン「ハッピー広場」を仲間6人で開いています。また、月に1回一人暮らしの高齢者のお宅を訪問し、高齢者のお話に傾聴しながら交流活動を行っています。

退職をして知らない土地に居住して生活を始めたので、「ボランティアを通じて地域を知りながら何か役に立てないかな」と羽黒福祉センターに相談して始めたのがきっかけです。

活動を続ける秘訣は、人生いろいろ、一人ひとりの人生に寄り添い、話したいことに共鳴し、「こころの交流を楽しむ」ことを大事にすることですね。

活動を通して変わったことといえば、誰かが困っている状況に出会った時、小さなことにもためらわず行動するよう努めるようになりました。

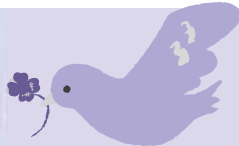
メッセージ

皆さんに伝えたいことは、まさに「おだがいさま」のところです。

特に高齢者の一人暮らしの場合、他に相談者がいない人が多いと思います。その様な状況に置かれた方々のために、一歩踏み込んだ相談が出来て信頼し合いながら安心して過ごせるような環境をつくる、そんな「おだがいさま」な地域づくりを目指したいと思っています。



「毎日さんぶぐで…、調子はどげだや？」
「んだのう、まずまずだのう。」



昨年の12月8日に「ひきこもりを知ること、語ること」と題し、京田地区社会福祉協議会による「心の健康づくり講座」が京田コミュニティセンターで開催され、長年にわたり鶴岡市を中心とした庄内地方でひきこもり支援の最前線にいる白幡康則さんを迎え、集まった京田地区の37人の受講者を前に、まだまだ知られていないひきこもりを正しく理解するための講演が行われました。

講演では、ひきこもりが社会問題化している韓国と日本の類似性や、特別な支援を必要とする障害（発達障害、精神障害など）との関連性などについて説明された後、事例を紹介しながら、社会ではひきこもりがまだまだ理解されず誤解されやすい状況に置かれていることや、決して本人の努力だけでは解決しないこと、焦らず時間をかけて支援していくことの大切さなどが説明されました。さらに、「地域の中でひきこもりを正しく理解する人たちが増えてくれることにより、一人でも多くの方を救える環境を作っていきたい」との思いも伝えられました。

「地域での講演は初めてだが、ひきこもりに対する誤解を解きたかったので、今回の講師を引き受けた。支援に必要な専門機関との関係づくりと同時に、“地域の人たちの理解”が、問題の解決や社会参加に繋がる重要なカギになる」と語る白幡さん。会場からは「思い違いをしていた」「誤解していたことを痛感した」といった声も多く聞かれ、ひきこもりに対する地域の理解が大きく前進した日となりました。



「地域の人たちの理解がカギ」と語る白幡さん



ご寄付ありがとうございました

みなさまのご厚志に心より御礼申し上げます。
(平成26年11月10日から～平成26年12月26日までのご寄付を掲載しています)

★一般社会福祉事業へ

◎鶴岡福祉センターへ

- ・真如苑 山形支部 様 200,000円
- ・庄内なつメロ会 様 30,000円
- ・鶴岡市立庄内看護専門学校 看学祭実行委員会 様 10,000円
- ・㈱庄内日報社 様 50,000円

◎藤島福祉センターへ

- ・藤島地域婦人会 様 5,000円

◎羽黒福祉センターへ

- ・田川建設労働組合羽黒支部 様 7,000円

◎櫛引福祉センターへ

- ・佐藤 正男 様 16,515円

★東日本大震災の避難者支援活動へ

- ・鶴岡市立斎小学校 様 30,000円

★ボランティアセンターへ

- ・パナソニック㈱エコソリューションズ社 様 車イス1台

★鶴岡老人福祉センターへ

- ・池田 国雄 様 卓球台1台、ラケット2ケ、卓球ボール3ケ

★地域福祉センターなえづへ

- ・アークバールグループチャリティー事業推進委員会 様 車イス1台

- ・山形パナソニック㈱ 様 車イス1台

- ・㈱産直あぐり 様 ふじりんご3ケース

★高齢者福祉センターおおやまへ

- ・匿名 1,000,000円

- ・山形県第三宗務所婦人会 様 雑巾126枚

★老人デイサービスセンターおおやまへ

- ・松本 繁井 様 電化製品各種(電気ポット、冷蔵庫、扇風機)、洗剤7本

★くしびきデイサービスセンターへ

- ・山形パナソニック㈱ 様 車イス1台

★櫛引すこやかセンターへ

- ・㈱産直あぐり 様 ふじりんご5ケース

★温海デイサービスセンター愛寿園へ

- ・パナソニック㈱エコソリューションズ社 様 車イス1台

★鶴岡市ゆうあいプラザがたぐるまへ

- ・㈱産直あぐり 様 ふじりんご3ケース
- ・スマイルサンタクロース(匿名) 様 クリスマスケーキ(10号)10ケ

- ・マックスバリュ鶴岡南店 様 クリスマスプレゼント(詰合せ)90セット

★もみじが丘へ

- ・マックスバリュあつみ店 様 クリスマスケーキ11個、みかん3箱、お菓子10袋
- ・㈱産直あぐり 様 ふじりんご2ケース

★鶴岡西部児童館へ

- ・井上 智弘 様 装飾用品2種
- ・佐藤 耕三 様 紙芝居5冊、トランプ1組
- ・佐藤 拓也 様 子ども用布団1セット
- ・佐藤 浩章 様 幼児車1台
- ・柴田 様 幼児用バズル3組
- ・菅原 力 様 紙芝居1冊

★くしびき東部保育園へ

- ・出羽商工会工業部会櫛引支部 様 絵本各種18冊
- ・田川建設労働組合櫛引支部 様

★特別指定寄附

- ・きらり宝町、デイセンターじゃがいも、作業所月山へ
- ・庄内ヤクルト販売㈱ 様
- ・庄内ヤクルト販売店親交会 様 150,000円

おだがいさま

第56号

平成27年2月1日発行

発行部数 49,300部



編集・発行

社会福祉法人 鶴岡市社会福祉協議会
鶴岡市泉町5番30号 (にこ♥ふる2階)

TEL 0235-24-0053 FAX 0235-23-9110

ホームページ <http://www.shk01.jp/>

鶴岡福祉センター TEL 24-0053

藤島福祉センター TEL 64-3100

羽黒福祉センター TEL 62-4534

櫛引福祉センター TEL 57-5300

朝日福祉センター TEL 53-2795

温海福祉センター TEL 43-2114

この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。